やすらぎ

京都市立病院
広報誌

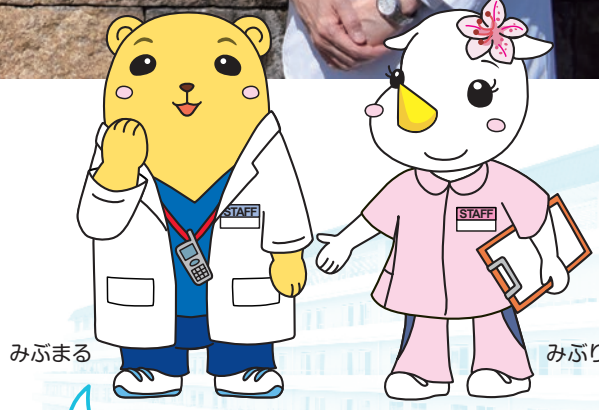
2020・4
春

第16代京都市立病院長
就任ごあいさつ

外科のご紹介
楽に、しっかり治す

◆抗がん剤治療のスペシャリスト 腫瘍内科

◆数字でみる京都市立病院 その3



みぶまる　みぶりん

この「やすらぎ」は，ホームページでも見ることができるよ！

地方独立行政法人 京都市立病院機構
京都市立病院

院長就任ご挨拶

第16代京都市立病院長　黒田 啓史

小児科専門医･指導医　日本がん治療認定医機構暫定教育医　がん治療認定医
血液専門医　日本小児血液･がん暫定指導医　造血細胞移植認定医
来てよし帰ってよし―孫に癒され、そしてほっこりしています

第16代京都市立病院長を拝命しました黒田啓史です。

京都市立病院へは小児科部長として平成13年に赴任し、一般小児科診療のほか白血病や小児がんの治療を専門に行ってきました。平成27年からは副院長として病院の管理、運営に携わり、この度大任を務めることになりました。責任の重さを痛感しますが精一杯務めてまいりますのでよろしくお願いいたします。

さて、当院は、昭和40年の開設以来今年で55年目を迎えます。この間市民の皆さんのニーズに応えるべく様々な取組を行ってきましたが、昨年11月には患者支援センターを開設し、入院前から入院中はもちろんのこと、退院後まで、切れ目なく患者さんとそのご家族をサポートする体制を整えました。

これからも病院の理念である、「患者中心の最適な医療を提供します」を礎に、救急や感染、小児・周産期、災害などの「政策医療」はもちろんのこと、がん医療、脳・心臓疾患、生活習慣病などに対する「高度な急性期医療」を提供する自治体病院としての役割を果たしてまいります。

その際、私が最も大切にしたいことは、患者さんの気持ちに寄り添った医療を提供することです。職員一人一人がこの点を十分理解し、一人でも多くの患者さんに、「市立病院で治療を受けて良かった」と思っていただける病院を目指してまいります。今後もこの目標に向かい努力していく所存ですので、どうぞよろしくお願いいたします。

黒田 啓史

副院長就任ご挨拶

このたび、副院長職を拝命いたしました清水恒広です。

当院へは平成13年度に赴任し、今年度で在職20年目になります。平成15年のSARSや平成21年の新型インフルエンザ流行時に、小児成人を問わず診療を行い、感染対策を講じた経験を基に、多種多様な感染症の診療や病院内の感染対策について研鑽を積み、外来診療、入院診療の質の充実に取り組んでまいりました。

今後、副院長としてさらに視野を拡げ、感染症対策で培った危機管理対応や院内外の関係機関、各部門との連携を生かし、今般の新型コロナウイルスへの対応をはじめ、京都市民のいのちと健康を守ることを第一義として、京都市立病院の発展に向けて努力してまいる所存です。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

清水 恒広

退任のご挨拶

令和2年3月末日をもちまして、京都市立病院長を退任いたしました。5年間の在任期間中に皆様から賜りました数々のご厚情に対して、心より御礼申し上げます。

在任期間中、自治体病院の務めである、「政策医療」を着実に行うと同時に、「高度急性期医療」を更に充実させ、安心・安全な医療の両輪として市民に提供できるよう努力を重ねてまいりました。

後任の院長をはじめ全職員が、引き続き、市民に愛され、信頼される自治体病院としての責務を果たしてまいります。今後とも、これまでと変わらぬご支援とご協力を賜りますことをお願いして、退任のご挨拶に代えさせていただきます。

5年間、誠にありがとうございました。

森本 泰介

NEWS

緩和ケア病棟がオープンしました!!

「地域がん診療連携拠点病院」として、多職種で構成する緩和ケアチームや緩和ケア病床の運用を行ってまいりましたが、がん医療の更なる充実に向けて、令和2年1月に緩和ケア病棟（14床）を設置しました。

右京区在住の吉村さんから、絵画をご提供いただきました。

手術支援ロボット（ダヴィンチ）を更新しました!

2013年、全国で4番目に手術支援ロボットを導入し、泌尿器、消化器、呼吸器の各領域において、多くの実績を積み上げてきましたが、2020年4月、最新の機種を導入しました。これまでの機能に加え、アームの可動域が拡がったことや、内視鏡の太さが従来より細くなったことなどにより、より高精度で傷が少なく、短時間で手術が行えるようになります。

外科のご紹介

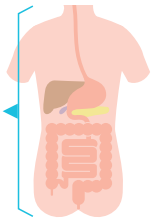
楽に、しっかり治す

総合外科担当部長
佐藤 誠二（さとう せいじ）

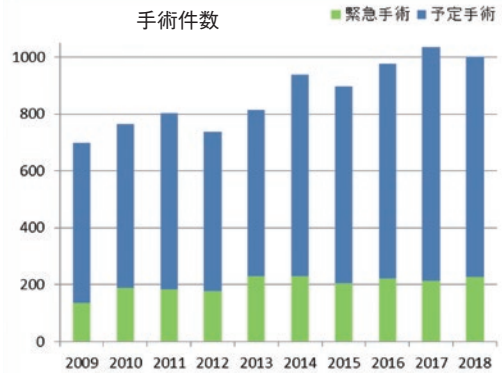
平成元年に京都大学を卒業後同大学外科へ入局。秋田大学准教授、藤田医科大学臨床教授、姫路医療センター統括診療部長を経て令和元年7月京都市立病院総合外科担当部長に着任。日本外科学会専門医・指導医日本内視鏡外科技術認定医、日本内視鏡外科技術認定胃領域審査委員等。
〈体力づくりのためジムに通う。趣味はドライブ。〉

消化器外科のことを教えてください

消化器外科は、人間が食べ物からエネルギーを得るために必要な消化・吸収・排泄・代謝・貯留を行う器官の病気を、手術して治す役割を担う診療科です。



2015年以降、当科の手術件数は年々増加傾向にあり、2018年には緊急手術を含めちょうど1,000件に達しました。特に、胃がん・食道がんを56件、大腸がんを125件、そして肝臓がん・胆のうがん・脾臓がんを30件と、がんの治療に力を入れています。



どのような手術を行っていますか?

私たち消化器外科の使命は、楽にしっかりと病気を治すことです。病気のもとを切り取ったら終わりではなく、患者さんの体へ負担が少ない腹腔鏡手術をできる限り行うようにしています。消化管（胃から大腸、食べ物の通り道）においては90％以上をこの方法で行っています。

腹腔鏡手術が終わった後も麻酔科医と連携して、患者さんの痛みを管理し、患者さんが目を覚ましたときに感じる痛みを極力小さくしています。

傷と痛みを最小限に抑えることで、回復を早めることや傷跡を目立ちにくくできます。術後合併症になる可能性も低くなるなど、開腹手術と比べ患者さんの負担がとても少ないため、高齢の方でも安心して手術

腹腔鏡手術（ふくくうきょうしゅじゅつ）
腹部に4～5か所穴を開け、手術器具やカメラを入れ映像を見ながら行う手術のこと。お腹の中で行うことは開腹手術と同じですが、術後にできる傷が小さいことが特徴です。

が受けられます。当院では、医師・看護師・ソーシャルワーカーが協力して患者さんの社会復帰をサポートしています。そのため、90歳近い方でも腹腔鏡手術をして元気に退院されています。

ダヴィンチ手術も行っていると聞きました

そうですね。消化器外科では、胃がんと直腸がんの手術で手術支援ロボット（ダヴィンチ）を使用しています。ダヴィンチ手術では、手ぶれが無くなり細かい動きが可能となることで、通常より精緻な手術ができます。それにより、取り除くことがむずかしい場所に生じたがんでも治療できます。

ただ、ロボットがすべて自動で手術するのではなく、術者である医師の操作のもと医師の手となり手術を行います。そのため、術者には手術に必要な、切る・剥がす・縫うなど基本の動作はもちろん、腹腔鏡手術における技術と経験が必要です。私も、技術を習得できるまでシミュレーターでダヴィンチ手術のトレーニングを重ねてきましたし、助手も含め約100件のダヴィンチ手術に関わりました。腹腔鏡手術についても約1000件の経験があります。

この経験を、治療と部下の指導の両方に活かしていきたいと思っています。

診療で心がけていることを教えてください

患者さん1人ひとりに寄り添い、その人にとって1番良い治療方法を選ぶことです。がんの進行状況によって患者さんの症状は様々で、それぞれに必要な治療は異なります。例えば、がんが進行し手術では切除が

難しい大きさの場合、術前に抗がん剤治療を行うことで切除できるようになることがあります。また、手術だけでがんを切除できたとしても、再発しやすいと考えられる患者さんには、術後に抗がん剤治療をしっかりと受けていただく。さらに、胃カメラだけで取れるときは胃カメラで取る。

多くある選択肢の中で1番良い治療方法を選ぶためには、関係する各診療科の協力が必要です。その相談の場として、当院ではキャンサーボードを週2回開催しています。患者さんの治療について話し合い、その人にとって最適な治療計画を立て治療を行っています。

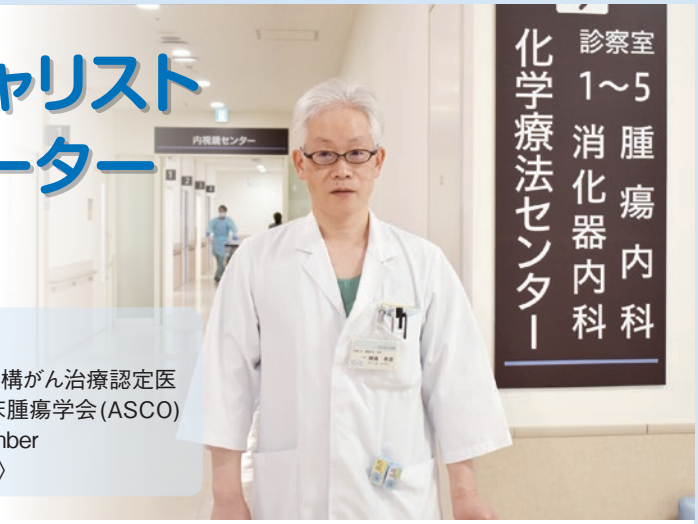
この先めざしていることは

冒頭で触れましたが、2018年に消化器外科は1,000件の手術を行いました。一見大きな数字に見えますが、私はこの数に満足していません。最新の医療設備や経験豊富な医師が集まっているので、より多くの患者さんを診ることができると考えています。

そして、患者さんに笑顔で日常へ戻っていただくためにも、1人ひとりに合う治療を高い技術で提供しこれからも「楽にしっかり」治すことを追求していきます。

キャンサーボード
消化器内科・外科、放射線診断科・治療科、病理診断科、緩和ケア科、腫瘍内科等が参加。診療科や職種の垣根を越えてがん患者さんの治療方針や治療方法を話し合います。

抗がん剤治療のスペシャリスト
がん治療のコーディネーター
がん患者さんの相談役



腫瘍内科　桐島 寿彦

日本内科学会総合内科専門医　日本がん治療認定医機構がん治療認定医
日本臨床腫瘍学会認定がん薬物療法専門医　米国臨床腫瘍学会(ASCO) active member　欧州臨床腫瘍学会(ESMO) full member
〈仕事終わりに毎日1時間ウォーキング。趣味はそば打ち。〉

―腫瘍内科はどんな診療科ですか?

腫瘍内科はがん治療の中で、抗がん剤治療を専門とする診療科です。

従来、日本では抗がん剤治療は、例えば胃がんであれば消化器内科や消化器外科といった臓器別の診療科が診療に当たっていましたが、海外では腫瘍内科医が治療に当たるのが主流です。

また、原発不明がんや複数の臓器に発生したがんなど、従来の臓器別の診療科では対応が困難ながんの治療は腫瘍内科医の腕の見せ所です。

原発不明がん
がんが最初に発生した臓器が分からず、診断がつきにくい転移がんのこと。がん患者さん全体の総数が少ないことから標準治療の確立が遅れているため、治療にはがんの専門的な知識が必要です。

―全国で腫瘍内科医が求められていると聞きました。

高齢になるほどがんが発生する可能性は高まり、高齢化に伴って、当院でがん治療を行う患者さんは年々増加しています。

一方、高齢者はがん以外の複数の病気を抱えていることが多く、薬剤の選択や用量調整に高度の知識が求められます。

こうしたことから抗がん剤治療のスペシャリストである腫瘍内科医のニーズが高まっていますが、全国で約1,300名、京都府では約40名と少ないのが現状です。

―抗がん剤治療というと副作用のイメージが強いですが。

多くの抗がん剤は正常な細胞にも作用するため、何らかの副作用が起こります。

しかし、最近では、分子標的薬というがん細胞を狙い撃ちにすることで、副作用を軽減した薬剤が増えてきています。また、副作用を和らげる薬剤も進歩しており，仕事を続けながら外来で抗がん剤治療ができるようになりました。

―腫瘍内科医を目指したきっかけは

元々消化器内科を専門としていましたが、複数の臓器に発生したがんや希少がんなど診断や治療に苦慮する経験がありました。これを機に臓器にとらわれずどんながんでも治療できる腫瘍内科医を目指し、キャリアを重ねています。

―今後のがん治療の姿は

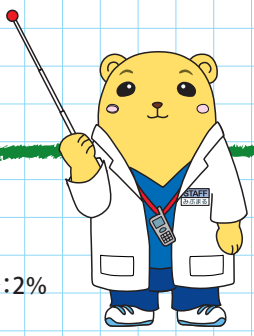
昨年から、がんの遺伝子異常に基づいて、より効果の高い治療薬を選択する『がんゲノム医療』が始まっています。がんゲノム医療においても腫瘍内科医が中心的な役割を果たしていく必要があります。

また、患者さんが上手に病気と向き合い、最適な治療が続けられるように各診療科をはじめ看護師、薬剤師、地域の医療関係者など多職種と連携していく必要があります。

そして、患者さんの価値観を尊重し、共に治療について考えながら最適な治療を選んでいくことで、ひとりでも多くの患者さんが自分らしい生活を送れるような医療を提供したいと考えています。

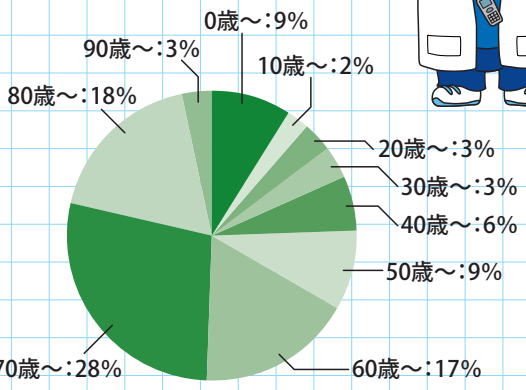
数字でみる京都市立病院　その3

京都市立病院にかかわる様々な指標について、
ご紹介します。



❶60.5歳（2018年度）

京都市立病院の一般病棟を退院された患者さんの入院日時点の平均年齢です。やはり年齢が高くなってくると何らかの病気で入院される方も多くなってきます。70歳以上の患者さんの割合が約50％を占める一方、地域周産期母子医療センターでもあり、0～9歳の幼児・乳幼児の患者さんも約10％を占めており、幅広い年齢層の患者さんにご利用いただいています。



❷11,873件（2018年度）

地域の医院・診療所から紹介状（診療情報提供書）をいただいた件数です。

市立病院では、患者さんを中心として、日常の健康管理を行う地域の医院・診療所等の先生と、当院の医師が、ともに患者さんの主治医となり、互いに連携し、共同で治療を行う「2人主治医制」を進めています。

専門的な検査や治療が必要だと判断され、当院へ紹介状が発行された件数は、毎月約1,000件。2019年度は現在集計中ですが、2018年度を上回る見込みです。

耳鼻いんこう科
紹介・予約制への移行について

京都市立病院の外来診療は、紹介状をお持ちの方、予約のある方を優先としておりましたが、専門的な診療が必要な患者さんへの対応の充実と、患者さんの待ち時間の短縮を目指し、**令和2年8月から、耳鼻いんこう科については、初診は【紹介のみ】、再診は【予約のみ】**の診療とします。

ご理解・ご協力のほど、よろしくお願いします。

～イベント・取組のご案内～　ご参加ください！

参加費無料

健康教室「かがやき」

「健康はつくるもの」です。健康づくりを応援する当院各科講師が講演します。

●日　時　毎月第3金曜日　午後2時30分～3時30分
●場　所　北館7階ホール

令和2年度
第1回『応急手当　最新版
～いざというときのために～』
第2回『緩和ケアって何?
～自分らしく生きるために～』
第3回『皮膚の腫瘍って?』

糖尿病教室

糖尿病は、適切な治療を続けていれば、健康な人と変わりなく生活できる病気です。正しい知識を持って、糖尿病と向き合っていきましょう。

●日　時　毎月第3木曜日　午後3時～4時
●場　所　北館7階小ホール

令和2年度
第1回『糖尿病とは?』
『糖尿病の検査について』
第2回『今日からはじめる食事療法!』
『いつまでも元気にいられるための運動療法』
第3回『治療を支えるお薬の話～内服薬編～』
『これであなたも大丈夫
～糖尿病とうまく付き合うコツ～』

がん患者・家族のサロン「みぶなの会」

がんで療養中の患者さんとそのご家族の集まりです。同じ境遇だからわかること、抱えている悩みなど、患者さん同士で話をしたり、話を聞くだけでも気持ちが軽くなるものです。気軽な気持ちでご参加ください。

●日　時　毎月第3・第4水曜日　各午後1時～午後3時30分
※12月は、第2、3水曜日の開催です。
●場　所　北館7階サロン
●対　象　がん患者さん及びそのご家族

※新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、4月は全ての市民向け講座、患者会等を中止することになりました。
5月以降については、社会情勢等を踏まえ、開催についてホームページ等でお知らせします。中止する場合やテーマを変更する可能性がありますが、ご了承ください。

新型コロナウイルス感染症予防!

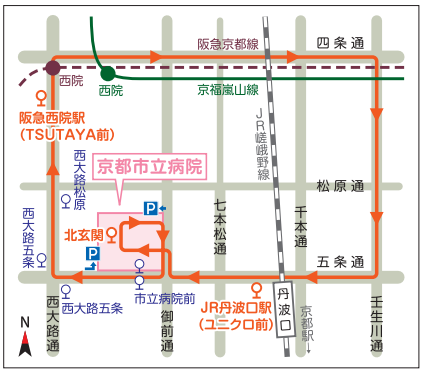
新型コロナウイルスを含む感染症対策の基本は、風邪や季節性インフルエンザと同様に、
「手洗い」や「マスクの着用を含む咳エチケット」です。
自身の予防だけでなく、ほかの人にうつさないためにも、
手指のアルコール消毒や咳エチケットにご協力をお願いします。

敷地内全面禁煙　路上喫煙はやめましょう!
喫煙はマナーを守って決められた場所で。

送迎バス時刻表（無料・予約不要）※平日のみ（土日祝・年末年始は運休）

時間	京都市立病院 ～出発～	阪急西院駅（TSUTAYA前）	JR丹波口駅（ユニクロ前）	京都市立病院 ～到着～
8時	30	35	45	50
9時	00 30	05 35	15 45	20 50
10時	00 30	05 35	15 45	20 50
11時	00 30	05 35	15 45	20 50
12時	00 30	05 35	15 45	20 50
13時	00 30	05 35	15 45	20 50
14時	00 30	05 35	15 45	20 50
15時	00 30	05 35	15 45	20 50
16時	00 30	05 35	15 45	20 50

京都市立病院
〒604-8845 京都市中京区壬生東高田町1番地の2
TEL 075-311-5311（代）　FAX 075-321-6025（代）
https://www.kch-org.jp/



編集後記

新年度になり、社会人として2年目を迎えます。緊張しがちなこともあり、部長先生の写真を撮るだけでも一苦労。医療のことも？でいっぱいです。それでも市立病院のことを皆さまに分かりやすくお伝えできるよう、日々構成を先輩職員と相談しながら考えています。今年度も、広報誌「やすらぎ」を引き続きよろしくお願いします。

やすらぎ　2020・春号　2020年4月9日発行
発　行：京都市立病院機構 京都市立病院
〒604-8845
京都市中京区壬生東高田町1番地の2
TEL 075-311-5311
FAX 075-321-6025